

～これからの時代を切り拓くために
求められる「探究する力」～

社会の急激な変化、予測困難な時代を迎え、教育も大転換期を迎えています。これからの時代に対応する力を育成する要となるのが、「探究的な学習」です。文部科学省が定める学習指導要領では、「総合的な学習の時間」の目標に、次のように示されています。（一部抜粋）

- ◎ 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ◎ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

「探究のプロセス」（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）における様々な場面では1人1台タブレット(※1)を効果的に活用することで、思考を活性化させ、主体的・対話的で深い学び(※2)の実現につなげます。

(※1) 1人1台タブレット

文部科学省のGIGAスクール構想で、子どもたち一人ひとりに整備された学習者用情報端末

(※2) 主体的・対話的で深い学び

知識の習得にとどまらず、児童生徒が自分で課題を見つけ、解決に向けて意見を出し合い、学びを深めること

～探究的な学習と学力の関係～

下の表は、児童・生徒が回答した選択肢別の平均正答率です。肯定的な回答をした子どもほど、学力調査では、正答率が高い傾向にあることが分かります。探究的な学習は、興味・関心・意欲の向上をはじめ、知識・技能の着実な習得や思考力・判断力・表現力等の育成に有効であると言われています。

Q. 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

選択肢	平均正答率(%)		中学校		
	小学校	中学校	国語	数学	英語
当てはまる	73.0	71.7	74.5	54.6	43.1
どちらかといえば当てはまる	68.9	63.4	68.6	44.9	32.0
どちらかといえば当てはまらない	68.8	59.0	60.0	42.9	32.4
当てはまらない	50.0	48.8	40.0	23.3	32.4

Q. 小学5年生(中学1・2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか

選択肢	平均正答率(%)		中学校		
	小学校	中学校	国語	数学	英語
当てはまる	74.8	72.9	78.0	57.8	41.5
どちらかといえば当てはまる	69.0	65.2	67.0	45.0	36.2
どちらかといえば当てはまらない	64.3	50.9	58.7	41.3	28.8
当てはまらない	60.0	51.3	40.0	23.3	32.4

Q. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

選択肢	平均正答率(%)		中学校		
	小学校	中学校	国語	数学	英語
当てはまる	71.0	67.1	75.5	56.2	44.6
どちらかといえば当てはまる	70.7	68.3	68.0	45.3	31.0
どちらかといえば当てはまらない	70.7	51.7	56.9	37.4	36.2
当てはまらない	40.0	42.5	56.7	26.7	35.3

～おわりに～

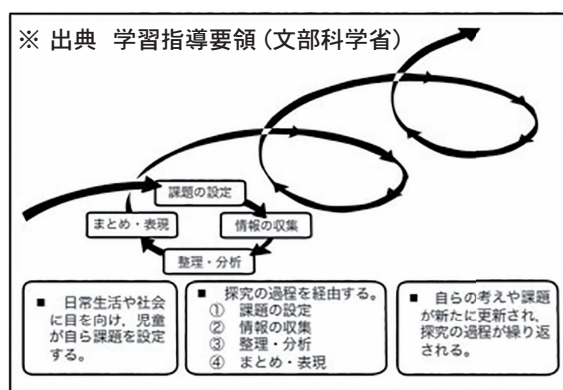
社会で生きて働く資質・能力を身に付け、児童生徒が学校教育のみならず、大人になってからも、実社会・実生活の中で重要な役割を果たすことができるよう、香美市でも「探究」を軸として、小中学校9年間の学びをつなぐ取組を推進していきます。



▲ 実験のまとめとして、生徒が動画を作成
ナレーションやBGMも挿入



▲ 各自の意見を即時に共有
多様な意見に触れることで得られる気づき



探究的な学習における学習の姿

～学力調査の実施～

4月に「全国学力・学習状況調査」が全国一斉に実施されました。この調査は、子どもたちの学力や学習状況を把握し、学校での授業改善に活用したり、家庭などと協力して子どもたちの生活を見直す目的で行われています。

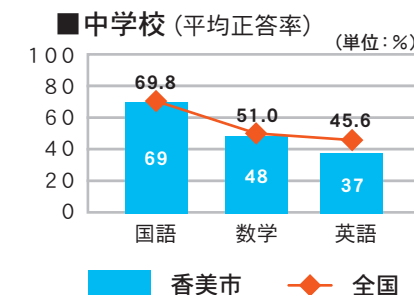
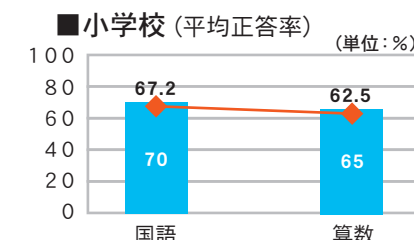
8月に調査結果が提供されましたので、香美市の子どもたちの学力の現状についてお知らせします。また香美市教育委員会では、この結果を受け、各学校とともに学力向上に、より一層取り組んでいきます。

全国学力・学習状況調査	
対象	小学6年生、中学3年生
教科	国語、算数・数学、英語
質問紙	学習意欲、学習方法および生活習慣等に関する事項

～調査結果～

香美市の結果は右のとおりです。

今後さらに授業改善を図るため、調査結果を分析し、これまでの取組の成果と課題を検証します。学校は、『P(計画)D(実行)C(評価)A(改善)サイクル』を学校全体で回しながら、授業改善に努めます。また、授業改善の取組の一環として、各校での研究に加え、各中学校区で小中学校の教員が9年間のつながりを十分に理解し、学習内容の系統性・連続性だけでなく、学びの質を共に高める研究に取り組んでいます。



～香美市学びをつなぐ学校づくり研究会～

香美市は、各中学校区の現状や特色を活かし、小中学校9年間の子どもの育ちや、身に付けたい力をもとにした系統性のある指導や支援を目指しています。また、小中一貫教育の研究を推進することを目的として、教職員を対象とした「香美市学びをつなぐ学校づくり研究会」を定期的実施しています。ここでは、今年度の研究会の取組を一部ご紹介します。

外国語教育研究会

研究テーマ「小中学校の9年間を通して、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成～言語活動の充実を通して～」

各中学校区での学びの系統性を意識した「CAN-DOリスト」(※)の見直しと実践

※ CAN-DOリスト = 児童生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標
⇒ 教師と児童生徒がゴールを共有し、学習への見直しをもち、学習を評価する。

算数・数学研究会

研究テーマ「割合の学習の系統をふまえ意味理解を図る授業づくり」

学力調査問題の分析をもとに、小学校の高学年と中学校で共通する課題を解決するための実践共有を行う。



▲ 研究会(令和5年6月6日)の様子